
令和3年度

全国学力・学習状況調査結果及び分析

【概要版】

佐倉市教育センター

目 次

| | |
|------------------------------------|----|
| <u>I 令和3年度全国学力学習状況調査について</u> | 1 |
| <u>II 教科の概要</u> | 2 |
| ○ 小学校 国語 | 2 |
| ○ 小学校 算数 | 3 |
| ○ 中学校 国語 | 4 |
| ○ 中学校 数学 | 5 |
| <u>III 児童生徒質問紙の概要</u> | 6 |
| <u>IV 学校質問紙の概要</u> | 11 |

I 令和3年度 全国学力・学習状況調査について

1 調査実施日

令和3年5月27日（木）

2 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

3 結果公表の趣旨

本調査において、市内小中学校全体の結果を公表することは、佐倉市教育委員会が保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすこととなります。また、分析した調査結果は、各学校における教育活動の改善に生かすとともに、佐倉市教育委員会の施策に資するために活用します。

ただし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。以上のことを考慮し、学校では、教育活動の取組状況と本調査結果の分析を踏まえた指導改善策を併せて示すことで、児童生徒の学力向上に資するようお願いいたします。

4 結果の概況

(1) 小学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：66% ・算数：71%

- ・国語、算数は全国及び県の平均正答率と同程度であった。
- ・国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が概ね良好であった。
- ・算数は、「データの活用」の技能が概ね良好であった。

(2) 中学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：65% ・数学：56%

- ・国語、数学は全国及び県の平均正答率と同程度であった。
- ・国語は、「話すこと・聞くこと」が概ね良好であった。
- ・数学は、「数と式」が比較的良好であった。
- ・数学は、「資料の活用」の正答率に課題が見られた。

Ⅱ 教科の概要【小学校国語】

1 小学校国語の平均正答率

| | | |
|---------|---------|-----|
| 問題数 14問 | 佐倉市(公立) | 66% |
| | 千葉県(公立) | 65% |
| | 全国(公立) | 65% |

2 小学校国語に関する調査の結果の概要

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」が概ね良好であった。
- 問題形式では、短答式の正答率が良好であった。
- ▲「書くこと」に多少の課題が見られた。
- ▲選択式の問題形式の正答率に多少の課題が見られた。

3 小学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが概ねできている。
- 目的に応じ、文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけることが概ねできている。
- 目的や意図に応じ、資料を使って話すことが概ねできている。
- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができている。
- ▲文章における主語と述語との関係を捉えることに課題が見られる。
- ▲文章における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題が見られる。
- ▲目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。

4 小学校国語の改善策

☆言葉の特徴や使い方に関する事項では、文の中における主語と述語との関係、修飾語と被修飾語との関係を捉えるようにする。

☆読むことでは、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約できるようにする。

Ⅱ 教科の概要 【小学校算数】

1 小学校算数の平均正答率

| | | |
|---------|---------|-----|
| 問題数 16問 | 佐倉市(公立) | 71% |
| | 千葉県(公立) | 70% |
| | 全国(公立) | 70% |

2 小学校算数に関する調査の結果の概要

- 「データの活用」が概ね良好であった。
- 問題形式では、選択式の正答率が概ね良好であった。
- ▲「変化と関係」に多少の課題が見られた。

3 小学校算数に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- データを二次元の表に分類整理することが概ねできている。
- 棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることが概ねできている。
- ▲三角形の面積の求め方について理解することに課題が見られる。
- ▲速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題が見られる。
- ▲小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題が見られる。

4 小学校算数の改善策

- ☆図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにする。
- ☆速さを求める式については、暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら、確実にできるようにする。
- ☆小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解できるようにする。

Ⅱ 教科の概要 【中学校国語】

1 中学校国語の平均正答率

| | | |
|---------|---------|-----|
| 問題数 14問 | 佐倉市(公立) | 65% |
| | 千葉県(公立) | 65% |
| | 全国(公立) | 65% |

2 国語に関する調査の結果の概要

- 「話すこと・聞くこと」が概ね良好であった。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について比較的良好であった。
- ▲「書くこと」に課題が見られた。
- ▲記述式の問題形式の正答率の一部に課題が見られた。

3 国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができている。
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することが比較的できている。
- ▲書いた文章を読み返して、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題が見られる。
- ▲書いた文章を互いに読み合い、文章の構成についての工夫を考えることに課題が見られる。
- ▲伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題が見られる。

4 中学校国語の改善策

☆書くことでは、読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を養う。

Ⅱ 教科の概要 【中学校数学】

1 中学校数学の平均正答率

| | | |
|---------|---------|-----|
| 問題数 16問 | 佐倉市(公立) | 56% |
| | 千葉県(公立) | 56% |
| | 全国 (公立) | 57% |

2 数学に関する調査の結果の概要

- 「数と式」が概ね良好であった。
- ▲「資料の活用」に課題が見られた。
- ▲「数学的な見方や考え方」や「数量や図形についての知識・理解」に課題が見られた。

3 数学に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 整式の加法と減法の計算が概ねできている。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることが比較的できている。
- ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
- ▲データの傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。
- ▲平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することに課題が見られる。

4 中学校数学の改善策

- ☆数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする。
- ☆データの活用において判断の理由を説明するために、データの傾向を的確に捉えられるようにする。
- ☆図形に関する条件の下で成り立つ事柄を見だし、数学的に表現できるようにする。

Ⅲ 児童生徒質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

1 基本的な生活習慣等

- 基本的な生活習慣は概ね身についており、健全な生活を送っている様子が伺える。
- 朝食を毎日食べている児童生徒の割合は高いが、中学生になると、毎日食べる割合がやや低かった。
- ▲携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束を守れた割合はやや低く、特に小学生に課題が見られた。

2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- 学校は楽しいと感じている割合が児童生徒ともに高かった。
- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめはいけないと思う」など、規範意識や道徳意識に関する肯定的回答の割合が高く、良好であった。
- 将来の夢や目標を持っている割合は、児童は高かった反面、生徒は低かった。

3 学習習慣等

- 家庭での学習時間は、児童よりも生徒の方が長い傾向が見られた。
- 平日の家庭学習の時間は、小学校では1～2時間が最も多く、次いで30分～1時間であった。中学校では、全国・千葉県より長い傾向にあり、2～3時間が最も多く、次いで1～2時間が多かった。
- 休日の家庭学習時間が「1時間より少ない」「まったくしない」と回答した割合は、小学校ではやや高い傾向にあるが、中学校では低くなる傾向が見られた。また、小学校では「全くしない」と回答した割合が最も高かったのに対し、中学校では「2時間以上」と回答した割合が最も高かった。

4 地域や社会に関わる活動の状況等

- 地域の行事への参加に関する肯定的回答の割合は、児童生徒ともに全国・千葉県に比べて概ね高かった。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童生徒の割合は、児童が全国・千葉県を上回ったものの、生徒は全国を下回った。

5 ICTを活用した学習

- 「学習の中でICT機器を使うことは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒の割合が9割を超えた。
- ▲授業におけるICTの使用頻度が全国・千葉県を大きく下回り、課題が見られた。特に中学校での「友達と意見を交換したり、調べたりする際のICT活用」の割合が全国・千葉県を下回り、課題が見られた。

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

- 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると感じている児童生徒が多かった。
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒が多かった。
- 自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫しながら発表することについて、小学校ではできていたが、中学校では課題が見られた。

7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童生徒が多かった。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒が多かった。
- 総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動への取り組みについて、小学校では比較的取り組んでいたが、中学校では課題が見られた。

8 国語の学習に関する興味・関心や授業理解度等

- 「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことが将来社会に出たときに役立つと思う」と肯定的に感じている児童生徒の割合が概ね高かった。
- 文章で書く問題において、最後まで解答を書こうと努力する児童の割合が高く、意欲的に取り組んだ様子が伺えた。
- 「国語の授業はよくわかる」と回答した割合は、小学校は高かった反面、中学校は低く課題が見られた。

9 算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 「算数・数学の勉強が好き」「算数・数学の授業の内容がよく分かる」と肯定的に感じている児童生徒の割合が概ね高かった。
- ▲「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答する生徒の割合がやや低く、課題が見られた。

10 英語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 「英語の学習が好き」と肯定的に感じている児童生徒の割合が高かった。
- ▲「学校の授業以外で、英語を使う機会があった」と回答する生徒の割合が低く、課題が見られた。

1 1 新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強に不安を感じた児童生徒が多かったが、計画的に学習を続けることができていた。
- ▲課題で分からないことがあった時、友達に聞いた、家族に聞いたと回答した生徒の割合が低く、解決の方法に課題が見られた。

1 2 各教科の調査時間の適切性

- 中学校の国語と数学は、解答時間が十分であると回答している割合が高かった。
- 小学校の算数は、解答時間が十分であったものの、国語は回答時間が足りなかったと回答している割合が高かった。

IV 学校質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

1 生徒指導等

- 学習規律を維持し、自己有用感を与える指導を行っている。
- ▲中学校では、将来就きたい職業や夢について考えさせることや、全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えることについて、課題が見られた。

2 学校運営に関する取組状況／教員の資質向上に関する状況

- 指導計画の作成に当たっては、教育目標を踏まえ目標達成に向けて組織的に配列している。調査やデータに基づいて編成した、教育課程に関するPDCAサイクルの確立など、学校運営に積極的に取り組んでいる。
- ▲指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら、効果的に組み合わせて配列することに課題が見られた。

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている割合は、千葉県を上回ったが、全国を下回った。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている割合は、小学校は全国・千葉県を上回ったが、中学校は大きく下回り、課題が見られた。

4 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道德の指導方法

- 学級活動の授業や特別の教科道德において、様々な事象に対し児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え話し合うような指導の工夫を行っており、概ね良好である。
- ▲総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導について、小学校では概ね良好であるが、中学校では課題が見られた。

5 学習評価

- 授業の中で目標を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる取組は、良好である。
- 児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かす取組は概ね良好である。
- 学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組がなされていたかについて、中学校では良好であったが、小学校では課題が見られた。

6 国語科の指導方法

- 多くの学校が、補充的な学習の指導や、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業など、基礎基本の定着に向けた指導に取り組んでいる。
- 目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行っている。
- ▲発展的な学習の指導や、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする指導において、課題が見られた。

7 算数・数学科の指導方法

- 多くの学校が、補充的な学習の指導を行っていた。
- 問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行っている
- ▲具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動は、小学校では概ね良好だが、中学校では課題が見られた。

8 英語科の指導方法

- ▲自分の考えや気持ちを英語で伝えられるように、言語活動を積極的に取り入れることや、外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会を設けることに課題が見られた。

9 ICTを活用した学習状況

- ICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けている。
- ICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフなどの技術的サポート体制がある。
- ▲オンライン授業を行うための準備について、課題が見られた。

10 特別支援教育

- 特別支援教育について理解し、児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行うことについて、概ね良好である。

11 小学校教育と中学校教育の連携

- ▲教育課程の接続や小中学校合同の授業研究、全国学力・学習状況調査の結果の共有などに関する小中連携について、課題が見られた。

1 2 家庭や地域との連携

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っており、概ね良好である。
- ▲学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に保護者や地域の人に参加したり、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして取り組んだりすることは、小学校では概ね良好であるが、中学校では課題が見られた。

1 3 家庭学習

- 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしており、概ね良好である。
- 家庭学習の課題の与え方について、中学校より小学校の方が、校内で共通理解を図りながら対応している。
- ▲児童生徒が行った家庭学習の課題を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことについて、小学校では良好であるが、中学校では課題が見られた。

1 4 全国学力・学習状況調査等の活用

- 全国学力・学習状況調査と佐倉市学習状況調査の分析結果を、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映しており、概ね良好である。

1 5 新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症の影響による休校期間においても、県や市教育委員会が作成したプリントを活用し、教科書に基づく基礎的な内容を重視した学習に取り組んでいた。
- 自主的な学習についても奨励し、積極的に取り組みやすくしていた。